



発足3年目となる本年度の活動方針を話し合った「円卓会議」

拠点組織設立へ機運向上

みやぎ防災円卓会議総会

いのちと
地域を
守る

東日本大震災の教訓の伝承と防災啓発の強化を目指す連携組織「みやぎ防災・減災円卓会議」は21日、仙台市青葉区の河北新報社で本年度の総会を開き、活動方針などを決めた。3月に採択したアピールを基に、震災教訓などを発信する拠点組織の必要性を改

めて確認、関係自治体などと連携し設立機運の向上を図る。

登録は76団体150人に拡大し、総会には約70人が出席した。世話人の今村文彦東北大災害科学国際研究所所長は「発足3年目を迎え、会員も増えている。さらにスケールアップして活動の幅が広がるよう、一層の協力をお願いしたい」と述べた。

宮城県が近く拠点組織の設立に向けた検討に入ることとを踏まえ、円卓会議でも議論を深め、組織の在り方などを提案する。市民向け啓発イベントの企画や提案、研究機関と報道機関の連携強化も推進する。

円卓会議は2015年4月に発足。宮城県内の大学や企業、町内会、報道機関など45団体70人の登録で始動し、後に沿岸部の被災市町などが加わった。毎月1回例会を開催し、活動の共

有や情報交換を進める。3月には「仙台防災未来フォーラム2017」に参加してセッションを開き、拠点組織の早期設立を求め

るアピールを採択した。円卓会議事務局は河北新報社防災・教育室。連絡先はメール entaku@po.kahoku.co.jp